H.P http://akaneen.com/

創立35周年を迎えて

~あかね園創立35周年記念誌より抜粋~

社会福祉法人あひるの会 理事長 岡崎 幸子



「障がいを持つ子供達に働く場を作ろう」という 親達の思いと活動が実を結び、昭和62年社会福祉 法人あひるの会あかね園が開設されました。

昭和、平成の時代を経て、令和4年の今日、おかげさまで創立35周年を迎えることになりました。

「地域で働き・地域で暮らす」ための支援を、「学校卒業後から親亡き後まで」の長きにわたって続けることを法人の根本理念にして、実践を重ねての35年間です。

これまで、本当に沢山の方々に様々なかたちで 応援、協力、ご理解を頂きました。

長く後援会(旧:友の会)に会費を送って下さった方々、バザーやコンサートでお世話になった地域の皆様、利用者の就労を引き受けて頂いた各企業、制度をすすめて頂いた行政、そして、保護者会、就労者親の会の方々と、それぞれにお力を頂きながら、ここまでこれたことに深く感謝を申し上げます。

"今、本人にとって必要なこと"をかたちにしながら制度に先駆けての事業展開も少なからず行って参りましたが、近年は制度も整い始め、有難く思うと同時に、これからはその制度をいかに活用するか、いかにあかね園流に使いこなしていくかが問われていくことになります。

さて、柴田前園長(現 法人常務理事)の後を受け、松尾施設長に園の舵取りをお願いして丸5年が経過しました。新しく手掛けた事業も数多く、あかね園35年間の歴史と実績を土台にして、時

代に合った新しい感覚での施設運営手腕には目を みはるばかりです。

2つのグループホーム(「あかねホーム幕張第二」、「あかねホーム大久保」)の開設、2つの新規事業(「就労定着支援事業」、「短期入所事業」)への参入と、いずれもあかね園の目指す「地域生活」の実現のため、着々と歩みを進めています。

こうした中、思いもよらないコロナ禍の出現は、 私達の生活を一変させました。"今まで通り"で はない"新しい生活様式"の定着に向けて、日々 地道な支援を続けている施設長を中心とした職員 集団の仕事ぶりも心強く思い、ここ2年あまりの コロナ影響下で得た大きな収穫とも言えるでしょ う。今後も起こりうるこうした想定外の事態に も、この見事なチームプレーで乗り切っていける と確信した次第です。

また、40周年を5年後に控え、あかね園舎の建て替えも、これから取り組むべき課題となっています。

各方面のご協力を仰ぎながら、時間にゆとりを もって準備を進めていきたいと思います。

折りしも昨年は、多様性やインクルージョン(包括)を理念に掲げての東京オリンピック・パラリンピックイヤーでした。あひるの会は35年前すでに、「地域で暮らす・働く」という「共生社会」へその一歩を踏み出していました。

しかし、まだ35年。真の「共生社会」を目指す途上でもあります。社会の一員として、まだまだ成すべきことが多くあるのではないかと自問自答しながら、これからの年月を重ねていきたいと思いを新たにした節目の年でもあります。

これまであひるの会あかね園に、惜しみないお 力添えを頂いた多くの皆様に重ねて感謝申し上げ ます。

今後とも一層のご理解とご協力を賜ります様、 お願い申し上げます。



H

「運営」から「経営」の時代へ ~変化を捉え、しなやかに~

統括施設長 松尾 公平

~あかね園創立35周年記念誌より抜粋~

新しい体制となって

平成28年4月。設立30年の節目となる年に園長(施設長)の職を私が引き継ぐ事となりました。時は社会福祉法人の制度改革(社会福祉法の改正)や「地域共生社会」を掲げた障害者総合支援法の見直しと併せ、私達と同様の就労系サービスにも株式会社等の民間企業が続々参入し、社会福祉法人といえども運営が立ち行かず廃業やM&A(吸収、買収等)というフレーズも耳にする、まさに福祉業界全体が激動、激変ともいえる時代に突入したタイミングでした。

そんな中、あかね園がこれからの時代においても地域から必要とされるサービスとして生き残っていく為には、30年園が実践してきた経験やノウハウだけでは難しく、変化し続けるニーズにマッチできる対応力(柔軟性やスピード感)が不可欠です。常に社会や制度、業界、利用者、家族等の変化を捉えることを怠らず、その中で、これまでのあかね園が30年で築いてきたことの「変えるべき事」、「変えざること」の一つひとつの判断を丁寧に行っていく事がこれからは求められます。

「運営」から「経営」の時代へ

近年、近隣市町村でもあかね園のように就職支援を行う「同業者」が急増しました。かつての様に「あかね園」という看板(知名度)だけで自然に多くの利用者が集まる時代は終わり、「支援の質」や「実績」が問われ、利用者の確保や報酬に直結する時代です。これまで長年実践してきた法人の様々な活動や取り組みに固執し、自己満足(ルーティンワーク)に留まっていては社会の動きやニーズに大きく遅れをとることとなります。

また、これまでの国等からの給付金を基に"上手にやりくり"しての「運営」という考えから、常に危機感をもち将来を見据え、様々な投資や準備に着手しながら事業やサービスを展開していく「経営」という視点をより強めていく必要があります。

もちろん、そこには人材の確保や育成(意識改革)等は欠かせませんが、近年では、近隣地域への市場調査や自己分析等を通し、定期的に自法人の役割やニーズを再確認する作業を「あたりまえ化」し、また利用率や就職件数、定着率、作業売り上げ(工賃)等の数値を強く意識した計画も策定し、成果(実績)に繋げるためにはどんな手だて(支援)が必要なのかを新たな世代や役職者達



あかね園 長期伴走型 多機能サービス

現在のあかね園の支援では年齢が 10代~60代の方を対象とした人生 の約40年の「はたらく」を支える 流れがあります。

一つひとつの事業(サービス)が 途切れることなく、ご本人やご家族 が必要な時期に必要なサービスとつ ながりながら、あかね園との「顔の 見える関係」を継続していくこの仕 組みを法人独自の長期伴走型多機能 サービス(事業)といいます。 就職活動を前に生活習慣を整えたい方

自立訓練(生活訓練)事業

地域生活に必要な生活力を

将来の地域生活に目を向けて、身だしなみや対人マナー公共でのルール等を体感的に学びながら「生活力」の獲得を図ります。

基本的な働く姿勢づくり

働く取り組みを通して、人との関わり方や安全の意識、 ルールを守る事、時間の管理 等どんな企業でも職種でも求 められるスキルを学びます。









就労移行支援事業

2年限内での企業就労が見込まれる方

企業で頼られる人材に

就職を控え、自分でできる 事は自分で考えて行動する ことを基本姿勢に求め、企 業からも戦力としてしっかり と頼られる人を目指します。

ベストマッチングを目指して

就職活動においては企業見 学や実習、講座等を通して、 様々な企業や職種を体験し ながら就職先へのベスト マッチングを目指します。







によって検討する「かたち」も整ってきており、 これからの時代に向けた現場を担う次の世代が成 長している姿に逞しさや期待も感じています。

設立40年に向けて

これからのあかね園にはさらなる魅力 (+αの 付加価値)が必要です。

まず挙げられるのが、今後さらにニーズの高ま る「生活支援(居住支援)の強化」です。

家庭では難しい生活面と就労面の一体的な訓練 を必要とするケース。親の高齢化、親亡き後のケー スも散見され、一人ひとりの目指す地域生活に沿っ た様々な支援のかたち(カリキュラム)を有する グループホームの増設等が求められています。

現在、多くの方からあかね園が選ばれる理由の 一つに、学校卒業後の約40年の人生を切れ目な く支援する仕組みがあります。このあかね園独自 の"長期伴走型の多機能サービス"(下図参照) に就労支援と生活支援(居住支援)もしっかりと 絡ませながら、今後も「切れ目なく」、「世代を拡 げて」、「中身を充実」させていくことが、利用者 や家族の一番の安心になると考えています。

次に挙げられるのが「個別性と専門性を高めた 支援」です。

家庭環境や入所の経緯、ニーズも年々多様化し、 より専門性が求められると共に感染対策も相まっ て支援のスタイルも個別や小グループでの取り組 みが主流となりつつあります。

個別性の高まりは「支援のコスト(時間、場所、 支援者の数)」にも直結しますので、人材の確保(定 着)だけではなく効率も考えながら、となります。

最後のひとつは「本体施設の建て替え」です。 様々なニーズや困難性を有する方、企業から働 き終えて帰って来る方、園で長く働き続けること を目標とする方等にも対応していくためには、ソ フト面(支援内容や専門性、人材、体制等)だけ でなくハード面の整備が求められます。

あかね園の本体施設も設立時から定員は3倍 (職員も約7倍)となり、老朽化や東日本大震災 の影響も残り、規模や機能の面では様々な所に不 足が目立ってきました。

既に設計等には着手しており、令和5年度の国 庫補助の申請を今年の7月には提出しております。

申請が通れば、最速で来年度(令和5年)の着工、 令和6年(2024年)度中には、新しい園舎をお披 露目できれば、と思いますが、国庫補助含め建設 資金の調達や建て替え期間の仮園舎の問題等、実 現までには乗り越えなくてはならないハードルも 多く、粘り強く取り組んでいきたいと思います。

これからの時代、社会の状況はさらにスピード 感を増し大きく変わってくる事と思います。

そんな中でも、設立時からの本人や親の声をも とにあかね園の方向性を定めていく事に変わりは ありません。次の40周年の折には 皆様よりさらに「魅力あるあかね 園」と思って頂ける様、職員一同 精進して参ります。引き続きのご 指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願



就職後~約3年間の短期集中定着支援

就職活動~採用後の長期定着(就労)支援

障害者就業・生活支援センター

年齢を重ねた方(企業退職者)の働く支援

就労定着支援事業

就職後も「顔の見える関係」を

離職率の高い採用後からの 3年間において、毎月の定 期面談や職場訪問、勉強会 等を通し、スムーズに乗り 越えていく事を支援します。

いつまでも学び続ける機会を

就職は新たなステージのス タートでもあります。長期 就労の「鍵」となる生活基 盤の安定を重視し、様々な テーマの講座を実施します。







長期職場定着に向けて

就職後の長いライフワーク の中で生じる就労以外の生 活、家族、老い等、様々な問 題や不安にも常にセンターが 伴走しているので安心です。

親しい仲間といつまでも

園で共に働き、就職活動を してきた仲間(職員)との定 期的な交流の場は職場や家 庭以外の「第三の場」として、 とても大切な居場所です。



い申し上げます。







就労継続支援B型事業

いきいきと働き続ける

年齢を重ねても長く働くた めの工夫や配慮の下、常に 豊富な仕事や高い工賃を糧 に「働き甲斐」を大切にし ていきます。

仕事も楽しみも充実させて

「働くこと」と「楽しむこと」 のメリハリも大切です。 自分 達の工賃等をもとに、リフ レッシュの機会や様々な経 験、体験の機会を提供します。









後援会2021年度決算報告と2022年度事業計画

2021年度後援会の運営は、皆様のご支援ご協力によりその役割を果たすことができました。お礼申し上げますと共に、大変遅くなり恐縮ですが、ここにご報告致します。

2021年度も昨年度に続き、新型コロナウイルスの影響により例年どおりの事業ができず、皆様にはご迷惑ご心配をおかけしました。後援会事務局のあかね園での活動は、制限や自粛が多く、みどりの風の発行の遅れや研修会の中止に至りました。

(単位:円)

			(十四、11)
収入の部		支出の部	
前年度繰越金	2,777,181	事務費	436,946
会員会費	5,879,300	研修費	0
(個人361名、企業24件)		法人への寄付	5,000,000
寄付金	70,000	次年度繰越金	3,289,556
預金金利	21		
合計	8,726,502	合計	8,726,502

2021年度法人へは、500万円を寄付致しました。将来のあかね園建て替え積立金等、法人運営に役立てられます。決算につきましては、4月20日山﨑順子、大城廣美両氏の監査を受け、適正と認められました。

なかなか先を見通せず、事業計画は予定の域を出ませんが、2022年度も引き続き皆様の温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

2022年度事業計画

4~5月	会員増強月間	
11月	みどりの風68号発行	
3月	みどりの風69号発行(予定)	



後援会へのご入会を お願いいたします。

一般会員(年間一口 3.000円) 法人会員(年間一口 10.000円)

郵便振替 00260-1-88365 口座名:あひるの会後援会 銀行振込 千葉興業銀行 津田沼支店 普-4771251

口座名:社会福祉法人あひるの会 後援会 代表 国松実枝子

入会申込み、問合せは事務局まで 047-452-2715 Fax 047-452-2693

•••• 保護者会活動報告 ••••

あかね園保護者会は、自立訓練事業、就労移行 支援事業及び就労継続B型事業に所属する利用者 の保護者の会です。現在約90名の会員で構成され ています。

主な活動は、保護者会定例会の開催です。年3回予定しており、5月に今年度第1回定例会が事業ごとに4グループに分かれて行われ、延べ約50名が参加しました。定例会では、園から昨年度の報告、今年度の計画や各事業の取り組みの紹介、また、利用者の作業活動の見学などが行われました。

数年前までは全保護者が一堂に会しての定例会を行っていましたが、現在はコロナ禍ということもあり少人数での集会となっています。事業別の定例会は、参加者が共通する関心のある話題をじっくり聞くことができ、とても充実しています。一方で他の事業の保護者の顔が見えにくくなり残念です。

あかね園保護者会の魅力は、様々な年代の多彩な保護者がお互いに刺激しあう事です。現下では 大勢で集うことは難しい状況ですが、再び皆で交流する機会が訪れることを願っています。

保護者会事務局 原田 章江

******** 就労者親の会活動報告 ********

令和4年度あかね園就労者親の会第一回定例会が7月1日、8日、15日の3回に分けて開催されました。感染対策のため1回を20名以内の人数で行いました。

一部は定例会。総会以後の親の会としての活動報告、会計報告、これからの活動予定などについて話しました。

二部は松尾施設長の挨拶、あかね園、支援センターからの報告、ふれあい会、余暇サークル、グループホームからの報告等がありました。1日、8日の会は定員20名以内だったので皆顔を合わせて、直接先生方と話し合いができ、充実した会となりました。15日は参加者が20名を超えた為、職員も含め急遽園内で分かれ初めてのリモート会議となりました。慣れないこともありましたが、これからの会の新しい姿なのかなと思いました。

次回は11月18日に研修会を、会場を借りて「プラッツ習志野」で行います。広い会場で一同に集まり、「あかね園」と繋がり、情報を得て、「なかま」とつながり、皆さんと話し合えるのを楽しみにしています。是非ご参加ください。

就労者親の会副会長 佐藤 淑子

編集後記

時代の流れに沿いながら35年を経てきたあかね園の取り組みを、35周年記念誌の中から抜粋して皆様にご紹介を致しました。園がここまで来られましたのも、長年にわたりご支援いただいている会員の皆様のおかげとあらためて感謝申し上げます。これから先も本人にとっては勿論、家族の心の拠り所としての元気なあかね園であり続けて欲しい。後援会はそのための応援をすることが役目、と再確認したところです。 (N)

編集人 あひるの会 後援会代表 国松実枝子

発行所 社会福祉法人あひるの会 後援会 〒275-0024 習志野市茜浜3丁目4番5号